

チニ・ボエリ（ミラノ生まれ、1924 – 2020）

マリア・クリスティーナ・マリアーニ・ダメーノは、1924年6月19日にミラノで生まれました。ミラノは、彼女が生涯を通して揺るぎない絆で結ばれた街であり、特に彼女が住み、スタジオを開いたサンタンブロージオ広場は、彼女の思い出の場所でもあります。3人兄弟の末っ子だった彼女は、生涯を通じて、ロンバルド語で“小さな人”を意味する「ピチニン」から親しみを込めて「チニ」と呼ばれました。

戦時中、彼女はマッジョーレ湖畔のジニエーゼに疎開し、そこでパルチザンのランナーとなり、当時医学生でステファノーニ旅団の司令官だったレナート・ボエリと出会いました。レナートは後に彼女の夫となり、サンドロ、ステファノ、ティトの3人の子供たちの父親となりました。

1951年にミラノ工科大学で建築を学んだ後、ジオ・ポンティのスタジオで短期間の修業を積み、「精神的・肉体的秩序」とともに「芸術と詩」を学びました。その後、戦後最も偉大なイタリアの建築家兼デザイナーのひとりであるマルコ・ザヌーゾのスタジオで長い期間を過ごしました。ここでは当初から、若い女性とその子供たちの生活環境を改善するために設計されたロレンテツジョの未婚の母親のための保育園（1955-56年）など、建築的な社会福祉プロジェクトに取り組みました。一方、ザヌーゾはリチャード・サッパーとともに、オリベッティやアルフレックスといったクライアントのために重要なデザインプロジェクトを進めていました。こうしてチニは、業界を知る機会を得るとともに、空間とそのコンテンツのより論理的な使用に向けた、プライベートと共有の生活空間を改善するために、常にクライアントとの対話から始まる設計手法を学びました。

1963年、チニはザヌーゾのスタジオで11年間働いた後独立し、自身のスタジオを開設しました。プライベートおよび公共の建築、インスタレーション、工業デザインを手がけ、空間と人間の関係における自律性を促すために、常に個人の身体的および心理的ニーズを起点にしてデザインを行いました。彼女は、建築は生活の質の向上に貢献し、喜びをもたらす、クライアントが自分たちのニーズに気づくのを助けるという大きな責任があることを認識していました。「デザインするという行為、つまり新しいものを提案し、責任と情熱を持ってそれを創り出すという行為には、喜びが内在しています。コミットメントは道徳的および知的倫理に相当し、それはあらゆる側面において私たちの仕事に常に付随するものです」。

サルディニア島のラ・マッダレーナに1967年、彼女が家族のために設計した家（その急進的な形状から、地元の人々には「カーサ・バンカー」と呼ばれている）は、彼女の考えを最もよく表現し要約した建築です。「岩の上に置かれた日よけ」がどのように共有スペースを提供し、その周囲に独立した、そして海に出入りできる居住者のための部屋を配置したかが示されています。「完全な自立と同時に、一緒にいる喜びを感じながら、最高に幸せな日々を過ごすことができました」。

1960年代の終わり以降、チニは、ポリウレタン、プラスチック、ガラス、木、銀、スチールなど、産業と素材の両方で実験を重ね、機能的で独創的なフォルムを追求し、デザインの原型を解明しました。1972年、フランス人アーティストのクリストがミラノに移住した後、彼女はソファ、アームチェア、ベッドの「パッケージ化」をスタートしました。アルフレックスのために制作されたストリップス・シリーズは、1979年にADIコンパッソ・ドーロ賞を受賞しました。

彼女のしなやかな形のデザインは海外にも伝わりました。1972年、ニューヨーク近代美術館で開催された展覧会『イタリア：新しい家庭の風景』では、彼女はアルテルーチェの602ランプ、アルフレックスのポボリラックス・アームチェア、そして個々のセクションで販売され、新しい生産ソリューションを使用して実験した“民主的”ソファ、セルペントーネを携えて参加しました。

1986年、彼女は第17回ミラノ・トリエンナーレに参加し、『Il progetto domestico』展を演出しました。そこで彼女は、共有スペースだけでなく、自分自身の自主性を養うことができるスペースも備えた、若いカップルのための住宅計画を発表しました。チニはカップルの生活において、「2つの異なる自律性の出会い、それはお互いを打ち消しあうのではなく、出会いの中でそれぞれの多様性を育てている」と考えました。

チニ・ボエリは、イタリア内外の個人邸宅（カーサ・バンカー、カーサ・ロトンダ、ラ・カーサ・ネル・ボスコ、カーサ・ラ・スバンダータ、ニューヨークのトランプ・タワー56階のアパートメントなど）、美術館のインスタレーション（モンツァのイボジオ美術館、ギラルツァのカーザ・グラムシ）、オフィス、店舗（アルフレックス、ノル・インターナショナル、ヴェネーコのショールームなど）のデザインを手がけ、空間の機能性と人間と環境との心理的関係に常に注意を払っています。工業デザインの世界では、彼女はアルフレックス、アルノルフォ・ディ・カンビオ、アルテルーチェ、アルテミデ、ピエルレイジ・ギアンダ、フィアム、フジタル、ノル、ラ・パポーニ、モルテーニ、プラダ、ローゼンタール、スティルノヴォ、トレップ+、トロンコーニ、ヴェネーコと仕事をし、イタリアデザインの歴史を塗り替え、今日、国内外の美術館のコレクションや展覧会で見ることのできる家具をデザインしました。

受賞歴：

1979年、アルフレックスのストリップス・シリーズで ADI コンパッソ・ドーロ賞を受賞。2008年、シカゴでグッドデザイン賞を受賞。2011年には ADI コンパッソ・ドーロ・キャリア賞を受賞し、イタリア共和国功労勲章グランドオフィサーに任命されました。2022年、フィアムのためにトム片柳とデザインした曲面ガラスのアームチェア「ゴースト」が ADI コンパッソ・ドーロ・プロダクトキャリア賞を受賞。

彼女の作品に関しては以下参照：

- C. ボエリ、『Le dimensioni umane dell'abitazione』フランコ・アンジェリ、ミラノ、1980
- C. ボエリ、『La dimensione del domestico』M. ベルトルディーニ（編集）、
『La casa tra tecniche e sogno』フランコ・アンジェリ、ミラノ 1988
- C. ボエリ、『Progettista e committente in Struttura e percorsi dell'atto progettuale』Città Studi 編、ミラノ 1991
- セシリア・アボガドロ（編集）、『チニ・ボエリ、建築家兼デザイナー』シルヴァーナ・エディトリアル、ミラノ、2004